

レタスの強風被害軽減には深さ2cmの深植えが有効

畝面より深さ2cm位置に植え付けることで、強風被害を軽減でき欠株が減り、収量が安定

背景・目的

- ・種子島地域では秋～冬季に風速15m/s以上の季節風が吹き、定植後にレタス苗の折損や欠株の被害多発
- ・強風被害を受けにくい葉身の短いコンパクトな苗生産技術(窒素含量80～100mg/Lの培養土で35日程度育苗)を確立
- ・定植方法は未確立で、強風被害を軽減できる定植技術の開発が必要

成果の内容

- ・植え付け深さ2cmでは、強風による欠株を軽減でき、収穫株数が増え、収量が安定
- ・植え付け深さ2cmでは、縦長球にならず品質良好
- ・植え付け深さ3cmでは、縦径／横径比が1.2を超え、縦長球となりやすく商品性が低下

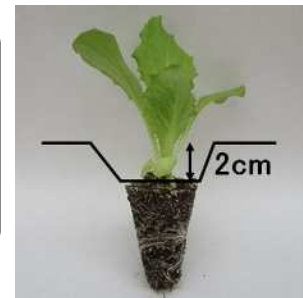


図1 植え付け状況

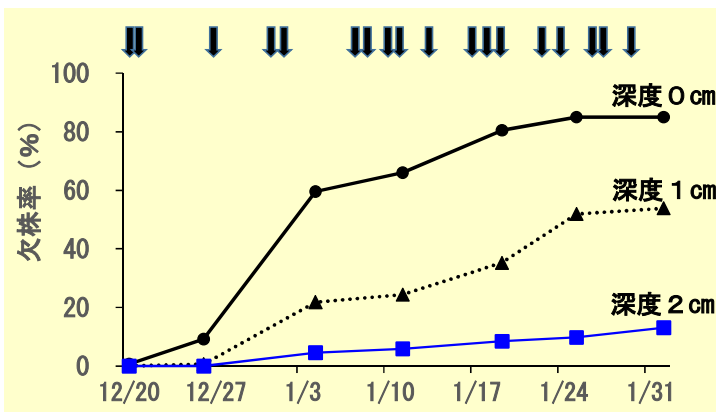


図2 植え付け深さの違いによる定植後の欠株率の推移
注1) 令和2年12月定植: 12月21日, 2) ↓: 最大瞬間風速15m/s以上計測日

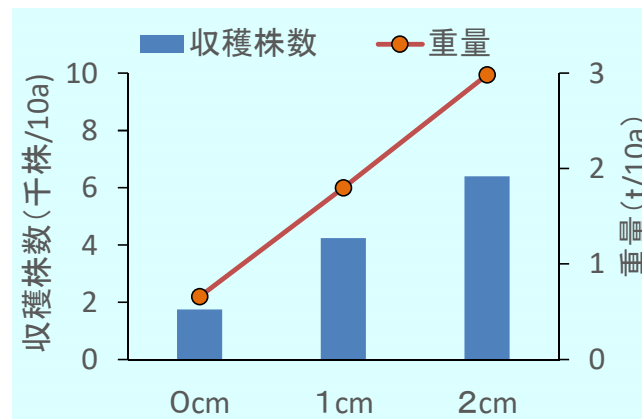
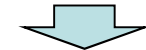


図3 植え付け深さの違いによる収量

期待される効果

- 収穫株数の確保により、収量が安定



レタス収益の向上



定植後の生育

普及対象・範囲
県内の強風被害を受けやすいレタス栽培地帯

鹿児島県農業開発総合センター
熊毛支場園芸研究室